

緑を守り、育てる活動が 心豊かな育ちにつながる——。

川の清掃活動や環境調査を通して環境問題に触れる

「おはようございます！」「川の水が気持ちいい。」「子どもたちの元気な声が飛び交う。豊野町にある小熊野川おぐまのの橋のたもとから、川の清掃がスタート。団員で6年生の宮崎奏丞そうすけさんは「思っていたよりゴミがいっぱいでびっくり。これからは、リサイクルしていきたい。」と語る。授業で学習したSDGsエスディーエスの実践の場。これが豊野町みどりの少年団の活動だ。

地域の水環境を守る取り組みの中で30年もの長い年月をかけて続けてきたのが川の水質調

査。熊本県の「みんなの川の環境調査」の手引きに基づいて行われる環境保全活動だ。

青空が広がる気持ちのいい朝、バケツと網を手に川へ。水中の石をひっくり返したり、水草の根つこのところを網ですくったりすると、石ころやなどとともに小さく動くものを採取。生息する生物によって快適な水環境から、そうでない環境まで5段階に分類でき、取れた虫を一つ一つ分けると現時点での川の状態が分かる。

地道な活動が認められて 6度の受賞

活動の実績がたたえられ、令

和3年の「全国緑の少年団優良賞」をはじめ、これまでさまざまな賞を計6回受賞してきた。

30年以上団長を務めるのが奥村隆雄たけおさん。「最初は、のこぎりなどの道具をうまく使えない子ども、30分程たつとすぐ使えるようになり、面白くなってくるんですよ。そしてあつという間に時間がたち、時間が足りない、もっと切りたいとの思いが伝わってくる。この活動を通して、できなかつたことができるようになる喜び」を感じてくれたらうれしい。」と語を語る。

「自然がいっぱいの豊野で活動するのが楽しい。」「楽しみながら、豊野をきれいにしたい。」

豊野町みどりの少年団

toyonomachi midorinosyonendan

緑を守り、育てる活動を通じて、自然や人、社会を愛する心豊かな子どもを育むことを目標に活動する、小学生が主体の団体。
自然と触れ合う体験を通して何か1つでも感じ取ることができるよう、年10回程度の活動を行っている。現在の団員は小学3～6年生の児童23人。



と3年生の宇野伊織いおりさん、4年生の奥村泉美いずみさん。活動を共に行う豊野小教諭の橋口健太けんたさんは「この活動を通して子どもたちは植物などの名前に詳しくなり、体も心も強くなってきたと感じます。」「長年活動を指導してきた中田裕一ゆういちさんは「豊野の山や川の身近な自然に親しみながらの林業体験や、科学的に自然を保護しようと実践を積みむことが大切です。」と話す。

一つ一つに意義があり、環境問題や緑化推進などの啓発につながる少年団の活動。実体験を通して環境保全を身近なものとして考えるきっかけを子どもたちに与え続けていく——。

① 毎年1回定期的に行う浜戸川などの水生生物や水環境の調査 ②「全国緑の少年団優良賞」をもらって一枚(後列左から 橋口健太さん、3人目 中田裕一さん、中央 奥村隆雄さん) ③ 小熊野川清掃活動 ④ 景色を見ながらのサイクリング ⑤ 夏キャンプ カヌーで水面をさっそうと ⑥ 門松づくりでのこぎりの使い方を覚えしました